

■インド：エネルギー効率局、石炭火力に7,400億ルピーの投資必要と試算

電力省傘下のエネルギー効率局（BEE）は2009年12月初旬、政府によるエネルギー効率化の目標達成に向け、2015年までに7,400億ルピー（1.4兆円）の投資が必要との試算を明らかにした。この投資により、2015年までに計9,850万トンのCO₂削減が見込めるとしている。現在の石炭火力発電の総設備容量は81,355MWで、年間のCO₂排出量は約5.4億トンと、電源の開発に伴い、増加傾向にある。国内最大の電気事業者である火力発電公社（NTPC）は既に、石炭火力発電所の修繕と近代化のため、1990年代以前に建設された発電所を中心に1MWあたり500万～1,000万ルピー（950万～1,900万円）を投資することを決定している。インド国内では現在、超臨界圧の設備（660MW、800MW）12基が建設中で、第12次五カ年計画（2012年4月～）期間中に運開する予定である。